

展示公開施設の館内環境調査報告

－ 平成 16 年度 －

吉田 直人・佐野 千絵・石崎 武志

1. はじめに

保存科学部は博物館・美術館などの文化財公開施設で、借用などの移動を伴う文化財などの展示があるときに、当該施設の館内環境調査を文化庁美術学芸課と協力して行っている。その調査については以前述べたが¹⁾、平成5年度からは各館ごとに、その規模や施工時期などについて、予め定まったフォーマットに従って整理している。平成5年度～15年度についてはすでに報告したので²⁻¹²⁾、ここでは平成16年度に行った館内環境調査に関して概括する。集計方法などは前報と同じである²⁾。相談件数およびその経時変化、相談館の地域分布、開催時期、借用計画をたてた時期、コンクリート打設完了から開館までの期間について図示する（図1～6）。また、平成16年度に報告書を書いた24館の基礎データを表1に記す。

表1 調査館の基礎データ

No.	着工	コンクリート打設完了	竣工	開館	借用時期	延べ床面積(m ²)	展示面積(m ²)	収蔵庫面積(m ²)	博・美	運営団体
1	2002.3*)	2003.6	2003.10	2004.4	2004.1	11,374	4,189	1,999	博	県
2	1998.2	1999.2	1999.9	2000.4	2004.7	6,745	1,480	1,010	美	県
3	2002.3	2002.6	2002.9	2003.12		48	0	48	博	その他
4	2002.9	2003.3	2003.7	2004.7	2004.1	1,603	191	929	博	市
5	2001.7	2001.12	2002.3	2004.10	2004.10	975	243	71	博	町
6	1989.12	1991.2	1991.2	1991.4	2005.2	1,678	523	273	博	区
7	2001.9	2002.5	2003.3	2003.10	2004.9	7,111	1,297	998	美	県
8	2003.6	2003.8	2003.1	2004.1		41	24	24	博	その他
9	1992.3	1993.2	1993.12	1994.9	2004.9	5,631	1,488	756	博	市
10	1999.4	2000.5	2001.3	2001.7	2005.4	6,775	2,221	1,433	博	その他
11	1970.7	1971	1971.5	1971.7	2005.6	2,466	749	113	美	市
12	2002.3	2002.12	2003.4	2004.10	2004.11	3,297	719	936	博	市
13	2000.1	不明	2002.4	2002.10	2004.10	1,679	不明	不明	博	市
14	2002.3	2002.10	2003.7	2004.4		482	169	140	博	その他
15	2001.7	2001.10	2002.9	2003.3	2004.10	2,236	639	279	博	市
16	1992.2	1993.2	1993.8	1993.11	2005.2	1,159	346	212	博	町
17	2002.7	2002.10	2003.7	2004.7		1,565	0	886	博	その他
18	2002.7	2003.3	2003.1	2004.11	2004.11	4,910	1,043	432	博	市
19	1974.12	不明	1976.5	1976.5	2004.9	2,012	452	44	美	その他
20	1996.4*)	不明	1997.8	1997.11	2004.10	2,748	964	306	博	県
21	1999.7	2000.4	2001.4	2002.11	2005.1	16,947	6,139	2,506	博	市
22	2001.12	2002.9	2002.1	2004.10	2004.10	2,920	483	135	博	市
23	1990.10	不明	1991.11	2002.4	2005.1	2,782	650	139	博	県
24	1996.12	1997.7	1998.5	1999.2	2004.9	8,836	1985	1,626	美	市

*) は改築に関するデータ

2. 相談館全体の傾向

相談件数および相談館数については、図1のとおりである。昨年同様、博物館・美術館の新設件数は少なくなった。相談件数は、昨年度よりやや少ない737件であった。

相談館の地域分布は、昨年同様、関東、近畿、中部・東海地方、中国・四国地方の公開施設が多かった（図2）。

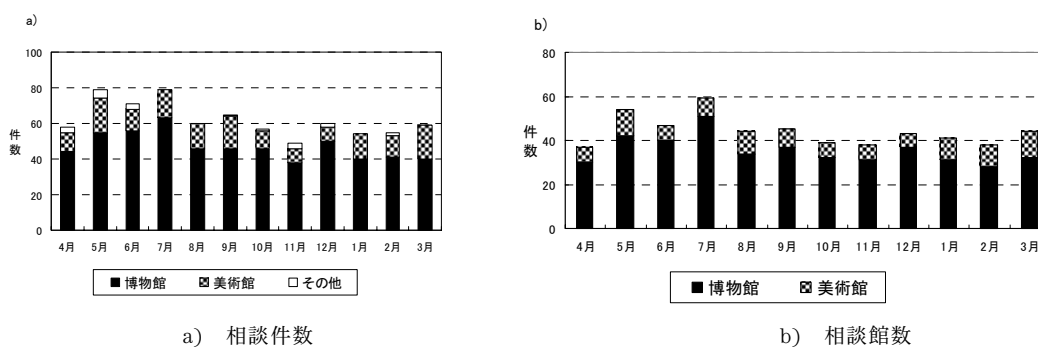


図1 保存環境に関する相談件数（平成16年度）

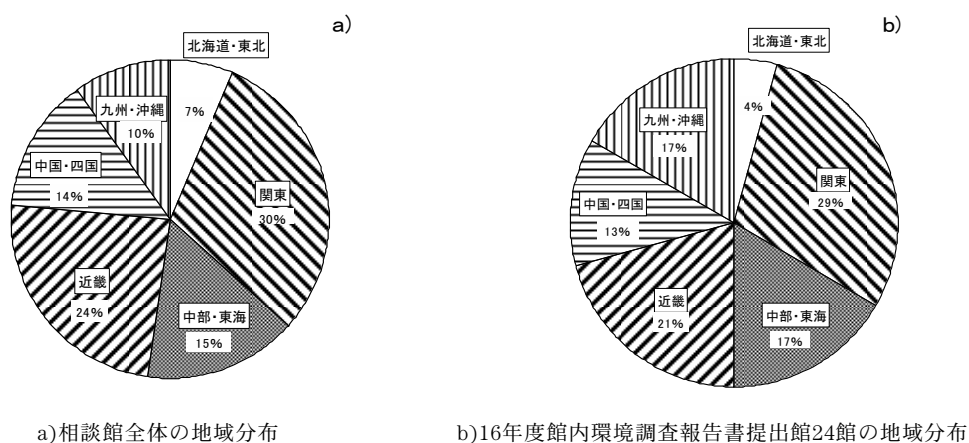


図2 相談館の地域分布（平成16年度）

3. 平成16年度館内環境調査報告書提出館24ヵ所の傾向

借用時期は、開館から6ヶ月以内の施設が全体の30%、6ヶ月から1年以内のものが5%であり、開館から1年以内の指定品展示に関する環境調査が約3分の1であった（図3）。竣工から開館までの期間は、昨年度は平均8.1ヶ月であったが、今年は9.0ヶ月であった（図4）。開館時期については、例年通り、春の4月に多かった。また、7月、10月、11月の開館も多かった（図5）。コンクリートの打設完了時期から開館まで、短い館では約2ヶ月、長い館では34ヶ月であり、平均では18ヶ月であった（図6）。

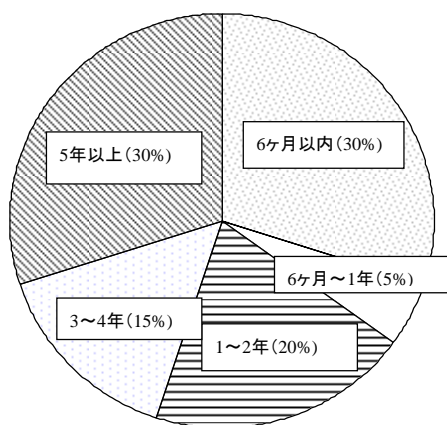


図3 開館から館内環境調査報告書を必要とする資料を借用するまでの期間

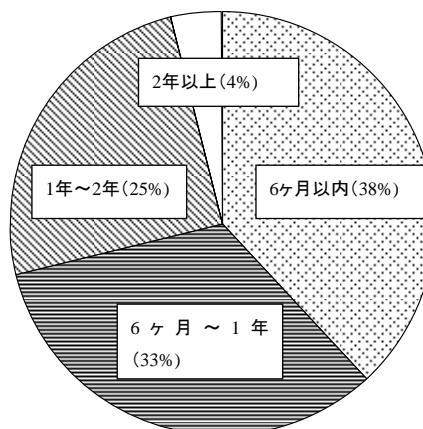


図4 竣工から開館までの期間

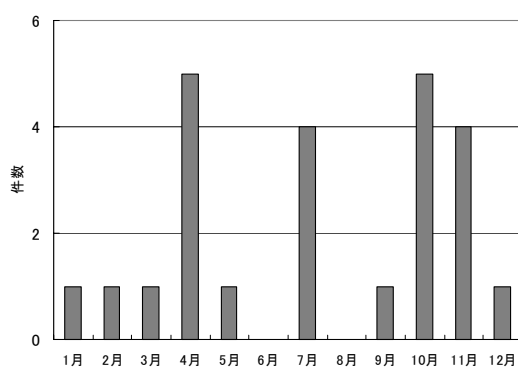


図5 平成16年度館内環境調査報告書提出館の開館月

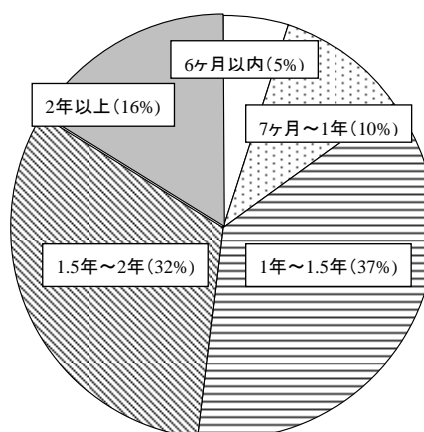


図6 コンクリート打設完了から開館までの期間

4. 考察

平成15年度は、環境調査報告書提出館のうち、過去1年間に開館したものが全体のほぼ半数で、5年以上経過した館は5分の1であった。16年度は、過去1年間に開館した館が約3分の1、5年以上経過した館も3分の1近くであった。ここ数年と同様、開館後なるべく早い時期に指定品を借用・展示したいという要望が多かった。そこでは、なるべく短期間に、展示室、収蔵庫の空気環境を正確に測定することなどに関する要請が多かった。しかしながら、館によって多少の差異はあるものの、展示室、収蔵庫内の酸、アルカリ環境は2夏を経ないと中性にならない場合が多いので、十分かつ適切に空気環境をチェックする必要がある。

5. まとめ

2004年末に臭化メチルが全廃になったことから、文化財施設では、害虫対策としてIPM(総合的有害生物管理)の重要性がますます高まってきた。これは、薬剤を使った燻蒸による害虫

対策から、あらかじめ虫などを施設内へ入らないようにするための、人的体制および環境づくりへの移行である。IPMの考え方は、国内ではまだ浸透しているとはいえないが、保存科学部では、研究会などを通して、この考えを広め、実践していただけるよう務めているので、東文研HP (<http://www.tobunken.go.jp>) などで開催情報をチェックしていただきたい。

今後とも、文化庁の担当者、美術館、博物館の学芸員の方々と綿密な連絡を取り合って、環境調査を進めていく予定である。

参考文献

- 1) 三浦定俊, 佐野千絵, 石川陸郎: 新設博物館・美術館における保存環境調査の実際, 月刊文化財 (平成5年4月号), 355, 34-42(1993)
- 2) 佐野千絵, 三浦定俊: 国指定文化財公開施設のシーズニングについてー平成5年度展示施設の館内環境調査からー, 月刊文化財 (平成7年9月号), 384, 4-11(1995)
- 3) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成6ー, 保存科学, 35, 74-79 (1996)
- 4) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成7ー, 保存科学, 36, 98-103 (1997)
- 5) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成8ー, 保存科学, 37, 153-157 (1998)
- 6) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成9ー, 保存科学, 38, 187-191 (1999)
- 7) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成10ー, 保存科学, 39, 87-90 (2000)
- 8) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成11ー, 保存科学, 40, 136-140 (2001)
- 9) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成12ー, 保存科学, 41, 157-161 (2002)
- 10) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成13ー, 保存科学, 42, 123-127 (2003)
- 11) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成14ー, 保存科学, 43, 113-117 (2004)
- 12) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告ー平成15ー, 保存科学, 44, 173-177 (2005)

キーワード: 博物館 (museum); 館内環境 (environmental condition); 空気環境 (indoor air pollution); 温湿度 (temperature and relative humidity)

Annual Report on the Inspection of Museum Environment in 2004

Naoto YOSHIDA, Chie SANO and Takeshi ISHIZAKI

The National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo, in collaboration with the Agency for Cultural Affairs (Bunkacho) advises museums on how they should design their facilities to provide adequate environment for the exhibition of nationally designated cultural objects. This report shows the results of inspection in 2004.

The number of advice given was 737 in 2004. Results of inspection were reported to 24 museums for their exhibition.

Due to the abolition of methyl bromide at the end of 2004, the importance of Integrated Pest Management (IPM) without the use of chemicals is increasing. Therefore the institute has been holding workshops on IPM for curators of museums. It is hoped that curators participate in these workshops and obtain practical knowledge of IPM.

